

# 平成30年度 第49回 「防火ポスターコンクール」 審査概評

聖園学園短期大学 教授 小笠原 京子

## 1 はじめに

このコンクールは、少年少女の防火意識を高め、一般県民の防火思想の普及啓発を図ることを目的として、ポスターの公募を小中学生を対象に行っているものです。

今年度は、小学校6校中学校10校合わせて75点の応募がありました。中でも、藤里小、八幡平小、秋田西中、十文字中、能代第一中、山王中、中仙中等、多数力作を応募していただき、嬉しく思います。また今年度は個人での応募もあり、更なる参加を促していきたいと思っております。来年度も是非この事業の意図を汲み、積極的に取り組んで欲しいと願っております。

## 2 小学生の部

元気で素直な作品が多く、子どもらしい感性やアイデアがあふれていました。画面の中に説明的なことをすべて盛り込むのではなく、強調するところはどこかを考え、画面に描くものの大きさ、配置などにもっと心配りができれば、思いがより強く伝わってくることでしょう。また背景の色の選択や塗り方をもっとていねいにすると、効果がぐんと上がります。



### ■ 一 席 齋 藤 航 (にかほ市立 金浦小学校 1年)

画面いっぱいに3軒の家が真っ赤に燃えていて、迫力がストレートに伝わってきます。キャッチコピーの「かじってこわいね」も画面とぴったりと合っていますし、すっきりした色づかひも効果をあげています。



### ■ 二 席 佐々木 綸 (大仙市立 高梨小学校 1年)

地震のあとは、火に注意しなければいけないことを思い起こして、描いた作品です。子どもらしい発想と図柄がとてもかわいらしく、また一生懸命さが伝わってきます。バックのクレパスの使い方、工夫しましたね。



### ■ 二 席 佐 藤 優 衣 (鹿角市立 草木小学校 4年)

「たこ足配線 火事のもと」という注意の文字がまず目に飛び込んできます。背景の色をうすく明るい灰色でおさえたことによる効果でしょう。図柄もコンセントを擬人化し、困った顔や大変な状態の表情にした工夫が面白いですね。



### ■ 三 席 福 司 穂乃華 (藤里町立 藤里小学校 3年)

おんなの子二人がバケツをきちんと準備し、花火をやっています。今年度の標語「忘れてない? サイフにスマホに火の確認」がしっかりとくる内容です。図柄も文字も目立つように、画面全体の配色が考えられています。



### ■ 三 席 阿 部 瑠 花 (鹿角市立 八幡平小学校 4年)

火事の原因を複数考え、画面に配置しながら、「火を使う物から目をはなさないでください」という子どもらしいキャッチコピーで、まとめた作品です。中央の人物の表情もきりりと緊張感をただよわせつつ、かわいらしく仕上がりました。



### ■ 三 席 恩 賀 琉 奈 (秋田市立 八橋小学校 5年)

「やめて 放火は犯罪」というキャッチコピーの画面から、放火をする人の暗い雰囲気伝わってきます。明るい家と夜の闇の対比が効果を出しています。着色の際、筆のタッチを丁寧にするともっと見やすくなりますね。

### 3 中学生の部

啓発ポスターの意味を理解し、画面構成や色調など、よく練られた作品が多く見られました。表現も多様で、シンプルに抽象化したもの、ストーリー性を感じられるもの、自分の得意な表現方法を生かした細かな描写、世界的に有名な名画からの発想等、表現することの豊かさや楽しさが伝わってきました。

ただ、イラストや着色が丁寧なだけに、文字の色や配置がもう少し考慮されていればと思われる惜しい作品がありました。

応募された作品からは、いずれもさまざまな工夫を凝らしながら、一所懸命に取り組んだ姿勢が伝わってきます。今後も期待しています。



#### ■ 一 席 高橋美咲 (横手市立 横手北中学校 2年)

「シンプル イズ ザベスト」という言葉がぴったりするようなイラストと構図です。黒い画用紙の上にマッチ1本と「火事はささいなことから」というキャッチコピーが描かれているのみですが、分かり易く、訴求力があります。黒の中に赤色によるブラッシングの表現が深い暗闇の空間を表出し、効果を大きなものにしました。



#### ■ 二 席 九嶋理加 (北秋田市 鷹巣中学校 1年)

火を擬人化し、背景の巨大な炎に家屋がすっぽりと包み込まれ、一目瞭然のポスターです。火事の原因となる鍋やコンセントの様子が端的に表現され明快です。キャッチコピーも力強くすっきりしています。



#### ■ 二 席 黒坂百花 (秋田市立 秋田西中学校 2年)

一見して、登場人物がムンクの代名詞とも言われる作品「叫び」を想記させます。今年度、東京都美術館で多くの観客を動員し話題になるなど、日本人にもなじみとなっています。その顔の表情を火事で大変な状況の中に組み込んだ発想力、感性の豊かさが笑いを誘いました。また、昔風の場面設定等、表現力の卓抜さに感心しました。



#### ■ 三 席 長谷山菜映 (秋田市立 秋田西中学校 1年)

「火から目を離さないで」というキャッチコピーとユーモラスな擬人化によって巧みに表現されたエビフライの鍋がピッタリの表現です。図柄の焦点化、画面全体の構成や配色等、よく考えられた作品です。



#### ■ 三 席 齊藤美旺 (横手市立 平鹿中学校 2年)

幸せを象徴するような家族の写真が燃えてしまいそうな様子を画面中央に据えることで、大切なものが失われる悲しさや大変さを火災予防につなげています。黒を背景とし、シンプルな画面構成が分かり易く訴求力ある作品に仕上がりました。



#### ■ 三 席 佐藤愛佳 (横手市立 十文字中学校 2年)

ガス台の上のガタゴトと沸騰している鍋、外側には燃えさかる大きな炎に包み込まれてしまっている町の様子が巧みに構成されています。「小さな火から大きな火へ」というキャッチコピーがストレートに心に響きます。色づかいもすっきりと明快です。